

最新版は、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人建築研究所のホームページ（<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0929.htm>）、
（<http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/data/173/index.html>）上で公表しています。

No.	修正箇所 (修正後のページ)	(修正後の行数、図表等の 番号)	修正前（平成 28 年 9 月 26 日公開）	修正後（平成 28 年 10 月 14 日公開）
1	表紙	上 13 行目	平成 28 年熊本地震建築物被害調査報告（速報）	平成 28 年 <u>(2016 年)</u> 熊本地震建築物被害調査報告（速報）
2	表紙	上 14 行目	～Survey and the Building Damage ～	～Survey <u>on</u> the Building Damage ～
3	はしがき	上 5 行目	被害をもらいました。	被害がもらわれました。
4	はしがき	上 17 行目	鉄筋コンクリート造建築物	鉄筋コンクリート造等建築物
5	はしがき	裏	－	本報告書はホームページに掲載している旨を記載
6	i	上 1 行目	平成 28 年熊本地震建築物被害調査報告（速報） 目次	平成 28 年 <u>(2016 年)</u> 熊本地震建築物被害調査報告（速報） 目次
7	iii	上 1 行目	(5. 5-1～5. 5- <u>98</u>)	(5. 5-1～5. 5- <u>96</u>)
8	iii	上 5 行目	5. 5- <u>71</u>	5. 5- <u>69</u>
9	iii	上 6 行目	5. 5- <u>96</u>	5. 5- <u>94</u>
10	iii	上 7 行目	5. 5- <u>97</u>	5. 5- <u>95</u>
11	iii	上 15 行目	(5. 7-1～5. <u>6</u> -38)	(5. 7-1～5. <u>7</u> -38)
12	3-15	上 8 行目～21 行目の数値	7 月 31 日時点の数値	8 月 31 日時点の数値に更新
13	3-15	下 2 行目	なお <u>8</u> 月以降も	なお <u>9</u> 月以降も
14	3-15	表 3. 7-1	・ 7 月 31 日時点の数値 ・ (平成 28 年 <u>7</u> 月 31 日付) ・ ～南阿蘇村の <u>2</u> 団地は～	・ 8 月 31 日時点の数値に更新 ・ (平成 28 年 <u>8</u> 月 31 日付) ・ ～南阿蘇村の <u>3</u> 団地は～
15	3-15	図 3. 7-1	7 月 28 日まで	8 月 2 日～8 月 31 日分を追記
16	3-17	上 1 行目	7 月 18 日時点で 5, 298 件、	削除
17	3-17	上 2 行目	8 月 1 日時点で 6, 929 件である。	8 月 1 日時点で 6, 929 件、 <u>8 月 29 日時点で 8, 637 件</u> である。

No.	修正箇所 (修正後のページ)	(修正後の行数、図表等の 番号)	修正前 (平成 28 年 9 月 26 日公開)	修正後 (平成 28 年 10 月 14 日公開)
18	3-17	上 3 行目	7 月 28 日時点で 3,829 件であり、県全体の	7 月 28 日時点で 3,829 件、 <u>8 月 22 日時点で 4,864 件で</u> 、県全体の
19	3-17	図 3.7-3	7 月 28 日まで	8 月 2 日～8 月 31 日分を追記
20	3-17	上 13 行目	<u>7 月末時点</u> では	<u>9 月上旬時点</u> では
21	3-17	表 3.7-2	・ 7 月末時点の数値 ・ (<u>7 月末時点</u>) ・ (第 <u>47</u> 報)」平成 28 年 <u>8 月 1 日</u> を元に作成	・ 9 月上旬時点の数値に更新 ・ (<u>9 月上旬時点</u>) ・ (第 <u>48</u> 報)」平成 28 年 <u>9 月 14 日</u> を元に作成
22	3-17	図 3.7-4	7 月 28 日まで	8 月 2 日～9 月 14 日分を追記
23	4-3	下 1 行目	行の途中 (「地表地震断層の分布は」) で改行されていた。	改行を取り除いた。
24	4-9	表 4.3-1	表 <u>2.2-1</u>	表 <u>4.3-1</u>
25	4-10	表 4.3-1	表 <u>2.2-1</u>	表 <u>4.3-1</u>
26	4-11	上 8 行目	文献番号「4.3-5)」の一部が赤字になっていた。	黒字に変更した。
27	4-19	図 4.3-10	(2) (qCy= <u>0.1</u> 、0.2)	(2) (qCy=0.2)
28	4-32	上 12 行目	擬似応答スペクトル	擬似 <u>速度</u> 応答スペクトル
29	5.2-1	上 13 行目	～大字辻の城) の概ね <u>全て</u>	～大字辻の城、 <u>大字馬水、大字寺迫の一部</u>)
30	5.2-10	上 2 行目	益城町 <u>大字安永、大字宮園、大字木山、大字辻の城の概ね全ての建築物である</u>	益城町 <u>中心部の建築物</u>
31	5.2-10	上 10 行目	<u>また</u> 倒壊・崩壊した建築物の位置は～	(3) 倒壊・崩壊した建築物の位置は～
32	5.3-23	図 5.3-12	<u>M-1</u> 、 <u>M-2</u>	<u>TMP1</u> 、 <u>TMP2</u>
33	5.3-24	上 2 行目	<u>S-3</u> は、	<u>TMP3</u> は、
34	5.3-24	図 5.3-13	(c) <u>S-3</u>	(c) <u>TMP3</u>
35	5.3-25	図 5.3-15	<u>S-3</u> EW 方向の必要耐力曲線と解析モデルの A- $\angle$ 関係	<u>TMP3</u> EW 方向の必要耐力曲線と解析モデルの A- $\angle$ 関係

No.	修正箇所 (修正後のページ)	(修正後の行数、図表等の 番号)	修正前 (平成 28 年 9 月 26 日公開)	修正後 (平成 28 年 10 月 14 日公開)
36	5. 3-26	図 5. 3-17	解析モデルの荷重変形関係と <u>S-3</u> EW 方向の 応答点	解析モデルの荷重変形関係と <u>TMP3</u> EW 方向の応答点
37	5. 3-28	図 5. 3-19	<u>S-3</u> 入力時の解析モデル A-1、A-2、C-6 の 荷重変形関係	<u>TMP3</u> 入力時の解析モデル A-1、A-2、C-6 の荷重変形関係
38	5. 3-32	下 5 行目～	—	参考文献に以下を追加 ※参考 (時刻歴応答解析の動画) A-1 KiK-net 益城 0414(前震): https://youtu.be/LkuChboqgLS A-1 KiK-net 益城 0416(本震): https://youtu.be/c7nCzeUo-hg A-1 TMP3 : https://youtu.be/AIBYsqwynCI A-1 (接合部補強) TMP3 : https://youtu.be/gZ5ijn0o4Rg
39	5. 4-42	写真 5. 4-179	体育館 <u>K</u> の屋根面水平ブレースのボルト	体育館 <u>G</u> の屋根面水平ブレースのボルト
40	5. 4-49	上 13 行目	鉄骨造建築物 96 棟の <u>被害</u> を行った。	鉄骨造建築物 96 棟の <u>被害調査</u> を行った。
41	5. 5-60	下 2 行目	42) 空港 AP	削除 (以下順次繰り上げ)
42	5. 5-69	上 1 行目	50) 研修施設 AX	削除 (以下順次繰り上げ)
43	5. 5-96	下 3 行目	7)	削除 (以下順次繰り上げ)
44	5. 7-11	写真 5. 7. 2-29	矢印が前の写真のところに移動している。	正しい位置になるように矢印の位置を調整した。
45	5. 7-23	写真 5. 7. 2-59	写真の位置がずれて表示されている。	正しい位置になるように写真の位置を調整した。
46	6-2	上 6 行目	0~10、10~20、20~30、30~40、40~80 チルダが半角及び上にずれている	0~10、10~20、20~30、30~40、40~80 全角に修正及び位置を調整した。
47	6-6	上 10 行目	2~3m チルダが半角及び上にずれている	2~3m 全角に修正及び位置を調整した。
48	7-1	上 21 行目	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造 <u>等</u>
49	7-2	上 16 行目	4) 鉄筋コンクリート造建築物	4) 鉄筋コンクリート造 <u>等</u> 建築物
50	7-3	上 18 行目	「火災による <u>建築物</u> 被害」	「火災による <u>建物</u> 被害」